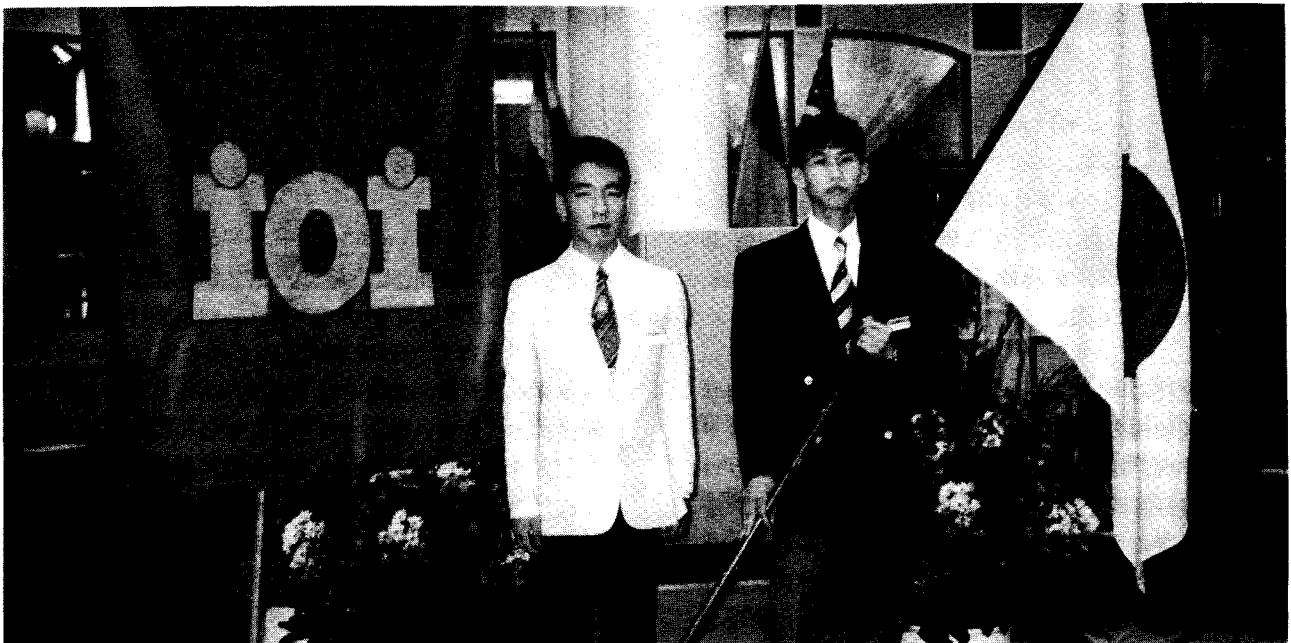


第6回 IOIスウェーデン大会に日本初参加



日本代表の伊藤哲史君、松山健吾君（開会式にて）

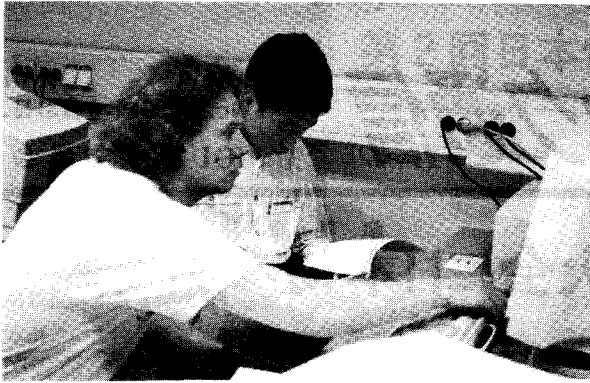
日本選手団 団長 守屋悦朗

今年で6回目を数える国際情報オリンピック（IOI=International Olympiad in Informatics）は、7月3日から10日にかけてスウェーデンの首都ストックホルム近郊のハンギンゲ（Haninge）で世界の52ヶ国から189人の選手が参加して行なわれました。日本の選手は今回が初参加で、松山健吾君と伊藤哲史君の2人の精鋭に絞って大会に臨みました。

7月3日午前11時45分定刻にS K 984便で成田を発った日本選手団（選手2人、役員3人）は、コペンハーゲンを経てその日の夕方6時頃ストックホルムのアーランダ国際空港に到着しました。途中のコペンハーゲンで去年アルゼンチンで知り合ったマカオ、ウクライナの面々と再会を懐かしみ、ストックホルムまでS K 540便に同乗となりました。アーランダ空港にはスウェーデンの組織委から出迎えが来ており、バスで1時間ほど南のハンギンゲに向かいました。ハンギンゲはストックホルムの南20kmほどの所に位置する小さな田舎町で、競技会場と

なった Royal Institute of Technology（スウェーデン語による略称E H T）と生徒の宿舎に充てられた Hotel Najaden 以外にはこれといったものは何もない所です。

大会の運営方法は昨年とがらりと変わって、今年は生徒達とチームリーダー達は別々の宿舎に泊まることになりました。大会委員長の Y. Lindberg 氏自らが我々をアパートまで車で送ってくれましたが、その車中での話によると、これは生徒達とリーダー達を切り離すのが目的ではなく、宿泊施設が足りないのが理由とのことでした。幸いにも日本チームは役員の谷さんが生徒達と一緒にのホテルに泊まれ、生徒達と一緒に行動できましたので、生徒達は不安なく試合に臨めたものと思います。また、各国に一人ずつガイドが付いて、エクスカッションその他の世話をしてくれたので助かりました。スウェーデン国内はあらゆる所で英語がきちんと通じますし、組織委員会の秘書達は勿論、日本チームのガイドをしてくれた Lisa Nilsson 嬢もそれなりの英語を話し大会本部との



採点風景

連絡役も果たしてくれ、大会運営も食事も昨年のアルゼンチン大会とは大違いにベターでした。

翌4日は開会式。来賓の挨拶の後、各国から選手代表一人ずつが自国国旗を持って入場行進もどきのことをして式を締めくくり、30分ほどで終了する簡略な Opening Ceremony でした。

さて、競技についてですが、昨年アルゼンチンの科学委員会（開催国の技術的支援チーム。候補問題やテストデータの作成、採点などを行なう）は競技2日目のプログラムの実行時間を5分に制限するという暴挙（？）をジュリー会議の了解なしに突然行ない物議をかもしましたが、その方式は結局引き継がれ、今年は全問題に実行時間制限を設けることが提案されました。今年は競技1日目、2日目ともに3問題が課されることは前もって分かっていたのですが、時間制限については突然だったので、1日目前夜に開催されたジュリー会議でもこの点に最も議論が集中しました。生徒達にはどのように採点が行なわれるのか（実行時間の上限、テストデータ数、配点）をきちんと知らせるということで一応了解されましたが、結局この方式を採用したことが今大会最大のキポイントとなったのです。すなわち、競技1日目の問題3でそのことは先ず最初の兆候を顕しました。90秒と設定された制限時間内に実行が終了しないプログラムが続出したのです。それでも、ロシア、ドイツ、スロバキアの各2人を始めとして1日目には満点が11人いました。我が日本チームもアルゴリズムではなくプログラミングテクニックで健闘したのですが、惜しくもいくつかのテストデータをクリアすることが出来ませんでした。採点そのものは、科学委員会が用意した採点用プログラムを使って行なわれ、順調に短時間で終わりました。採点に対するプロテストも各国からかなり出ましたが、それに対する処置が印刷物ですべて事後報告され、納得のいくものでした。

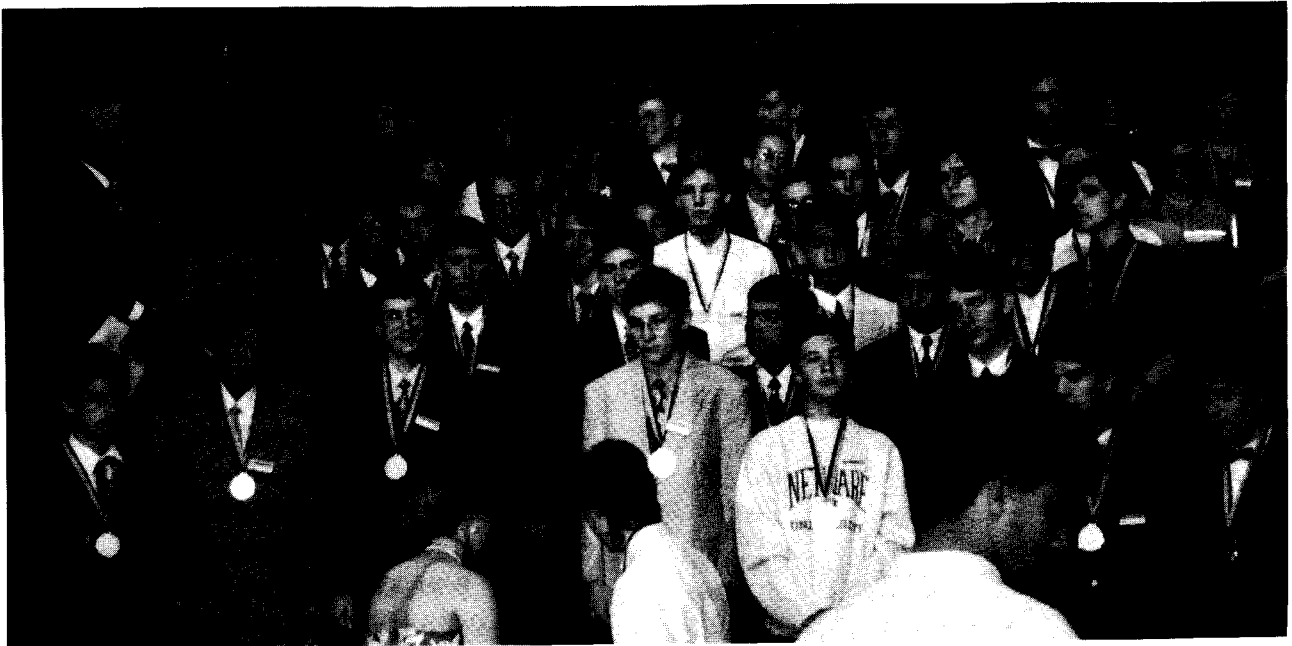
間に一日エクスカッション（午前は後援会社の一つである Ericsson 社訪問、午後は Vasa 号博物館見学）を入れての競技2日目はもっと悲惨でした。制限実行時間をクリアできないプログラムが問題1～3のいずれにお

いても続出。0点のオンパレードとなったようです。2日目の得点100点満点が50点を越えた者は30人といませんでしたが、そのことが分かったのは後のこと。我が日本チームの採点に立ち会った我々一同は36点、50点という得点にすっかり落ち込んでしまいました（今年はメダルが取れそうと期待していたのに！）。しかし、翌日のエクスカッション中やその後のジュリー会議で会った人達からの情報によって、我がチームの2人にもメダルの可能性があるほど全体の得点が低かったことが次第に分かってきました。メダル決定のジュリー会議では、公平を期すため選手氏名は勿論、国別も得点も隠されて審議が行なわれたため、誰も自国の選手がメダルを獲得できたかどうか全く推測できませんでした。そして、翌9日の表彰式兼閉会式を迎えたのです。

Closing Ceremony は、ストックホルム市のシティーホール（実際は赤レンガ造り）で行なわれました。このシティーホールはノーベル賞授賞式の際パンケットも行なわれる由緒正しき所であると同時にストックホルム市内最大の観光名所の一つでもあります。開会式とは大違いの華やかさ、受賞者にはメラレン湖の女王という美しい女性が一人一人の首にメダルをかけてくれたのです。銅メダルから逆順に受賞者一人一人の名前が呼び上げられ、壇上に並びます。松山君にも銅の可能性ありと読んでいた我々は息を凝らして読み上げられる名前に耳を傾けていましたが、銅メダルのグループではついに呼ばれず終い。ああがっかりと思っていたその時、次の銀メダルグループの3人目で“Kengo Matsuyama, Japan”のコールがあったのです！この調子だと、伊藤君の金メダルもあるかという期待の方はもろくも崩れてしまいました。初参加にしては上出来と言いたところですが、ちょっと問題あり。それはプログラミングテクニックに頼りすぎたという点です。オリンピック本来の趣旨からすれば、難しい知識やテクニックを必要とせず、じっくり良いアルゴリズムを考えることに重きが置かれるべきであり、出題も採点もそうあるべきなのですが、今回



メラレン湖の女王と日本代表チーム



授賞式のもよう

は1日目も2日目も3題、それもそんなには易しくない問題を解くプログラムを5時間で書けというものであり、しかも実行時間の制限がある（それも30秒あるいは90秒というきついもの）ということが前もって分かっていたので、選手達もあせったようです。アルゴリズムなんてゆっくり考えている余裕がなかったのも当然でしょう。とはいえ、ほぼ満点を取っている選手もいるのですから、これは反省すべき点でしょう。

何はともあれ、初参加で銀メダル2個を獲得することができました。伊藤君と松山君の健闘に拍手、拍手！我々にとって、これはほんの手始め、来年はさらに良い成績が残せるよう、参加する生徒諸君に期待するとともに、我々自身も頑張らねばと身を引き締めました。

もりや えつろう
 (東京女子大学数学教室教授)

す。今回の大会は天候だけでなく、運営も非常に良く準備された素晴らしいものでした。こうした中で、日本チームは初参加ながら、松山君、伊藤君の両選手とも実力を発揮して、二人とも銀メダルという素晴らしい成績を残すことができました。…

来年のIOIは6月26日から7月2日にかけてオランダで開催されますが、今年の選手二人は、さらに実力をつけて違う色のメダルをねらってくれることと思います。また、彼ら二人に続く、彼ら二人を追い抜くような新人の登場を期待しています。

最後になりましたが、第1回日本情報オリンピック(日本代表選手選抜)の国内大会から選手派遣までボランティアで協力していただいた方々、寄付をいただいた法人・個人の方々、そして、色々なノウハウを教えてください手助けしていただいた(財)日本数学オリンピック財団に感謝いたします。

たに せいいち
 (東京女子大学情報処理センター助手)

副団長 谷 聖 一

この原稿を、IOIから帰国(7月11日)してから数日後、梅雨も明け猛暑が続いている中で書いています。今年のIOIはご存知のようにスウェーデンのストックホルム近郊で行われました。IOI開催中は、雲一つなく日本では見られないとてもきれいな青い空が広がる素晴らしい天気が続きました。昼間は日向の気温こそ上がりましたが、湿度が低く風が冷たいせい、とても過ごしやすい気候でした(夜暗くならないので時間の感覚が変になりましたが)。そのせいか、この暑い日本を抜け出してもう一度スウェーデンに行きたいと考えてしまいま



スウェーデンの海辺にて

IOIスウェーデン大会日本代表選手2人からのメッセージ

Let's enjoy IOI !!!

伊藤 哲史



7月3日から11日まで僕はIOIスウェーデン大会に行ってきました。事務的な報告などは守屋先生などが書かれると思いますので、僕はIOIの楽しみ方などを書いてみようと思います。

意外に思われるかもしれませんが、IOIの日程にはいろいろと楽しむための時間が用意されています。約6日間の日程のうち実際の競技は2日間で他の日は観光にあてられています。観光の日には船に乗って市内観光をしたり博物館を見学したりします。海岸では日光浴を楽しんでいる人が大勢いました（あちらではすでに夏休みとのこと）。競技も午後5時には終わるのでその後は暇です。最終日の夜にはパーティーが催されます。

IOIには全世界の約50カ国から選手達が集まってきました。皆が互いに友達になりたいと思っていますので、このチャンスを生かしましょう。IOIの楽しみ方は簡単、まず何か話しかけることです。意外と互いに興味があるようで、ちょっと話しかければ話が弾みます。顔が同じなので、東洋の人の方が気が合うようです。僕の場合まず韓国とタイの選手と話しました。ある程度慣れてしまえばあとはどこの国の人とでも話ができます。各国の硬貨を交換したり、プレゼント（僕は守屋先生からもらったJOIシャープペンを配り歩いていました）を交換したり、住所を教えあったりします。夜はホテルのロビーに行けば大抵どこかの国のチームがたむろしていますし、船上なども絶好の機会です。最後の夜のパーティーなどは、話をしない方がおかしいくらい皆で陽気に盛り上がります（僕は最後の夜はPM8:00ぐらいからAM3:30ぐらいまで遊んでいました）。

いろいろな国の人と話していると、いろいろな人と出会います。ある韓国人からは、日本の漫画やテレビゲー

ムが韓国で流行していて、多くの学生はそれを目当てで日本語を勉強していることも聞きました。たまたま日本の某ゲームのCDや某アニメのCDを持っていったので、一緒に聞いたりもしました。僕の顔を見るや「Oh! You are from Japan」と言って日本の歌をピアノで弾き出すドイツ人がいました（学校で日本語を選択しているとのこと）。高々と「I got zero point!」と叫びながら道を歩く陽気なクエート人もいました。両親が日本人だというキューバの人にも会いました。

さて、少しは皆さんの役に立つようなことも書きましょう。国際大会ですので会話は当然英語です（但し今回の場合、日本人と韓国人には日本語で話しましたが）。そのため、多少戸惑ってしまうこともあるかもしれませんが、とりあえず初対面の人には「Hello! I'm from Japan. Where are you from?」でOKです。試験後は「How was your score?」表彰式後は「Congratulations!」と言っておけば、まず大丈夫です。あとパーティーの時には自国の硬貨を渡して「Please write your address.」とでも言って住所を聞いたりしましょう。交流というのは案外簡単にできるものです。こんな良いチャンスを活かさない手はありません！

実際に行く時には、相手に住所を書いてもらうメモ帳と、自分のname cardはあった方がいいので持参しましょう。それから遅寝早起に慣れておいた方が身のためです（経験者）。欲を言えば、英語の勉強も多少はやっておいた方がいいと思います（笑）。

ということでIOIの楽しさがお分かりいただけでしょうか？ せっかくの国際的な機会ですので、部屋にこもりっきりでいては面白くありません。積極的に国際交流をしましょう。

今年は意外にも初参加でメダルを持って帰ることができました。JOIの合宿参加者9人中6人が高3で来年は参加できませんので、来年はかなり期待できそうです（かなり大穴だと思ふ）。ということで、JOIとIOIの発展を祈って、駄文の最後を締めくくりたいと思います。

さあ、来年も頑張りましょう!!! Let's enjoy IOI!!!

IOIスウェーデン大会に参加して

松山 健吾

もともと、クラブ（パソコン研究会）の顧問の教官から紹介されて、力試しのつもりで受けた情報オリンピックなのに、まさか日本代表に選ばれてスウェーデンに行けるとは思いも寄らなかった。しかも、そのメンバーがクラブの会長・副会長の二人組であったから、誰かの大きなイタズラではないかと勘ぐったくらいである。



競技自体は特に変わった事はなかったが、コンピュータのキーボードがスウェーデン仕様で、慣れるには少々時間がかかった。英語では使わない「ã」や「ö」といった文字や記号がキーボードにあった。実はアメリカ仕様のキーボードも使えたのだが、使わなかった。また、ソフトウェア（OSなど）のメッセージもスウェーデン語で、英語だと「Y/N」と訊ねるメッセージが「J/N」になっていた。

今年は平均点が低かったが、それはプログラムの実行時間の制限が厳しかったからであって、問題が難しすぎ

たからではないと思う。もっと制限が緩ければ、平均点はかなり向上していただろう。プログラムを高速化させようとする、無理をするのでミスも増えるからである（私はプログラムを高速化しようとして、逆に動かなくなった）。もっとも、採点の事を考えると、制限の厳しい方が楽には違いない。

競技の間には、観先もあった。ストックホルム市内を船で遊覧したり、小さな島にハイキングに行ったりした。ERICSSON という会社（今回の大会の最も大きなスポンサー）に行き講演を聞いたりもしたが、英語は不得手なので、概要しか判らなかつた。一日おきに必ず観光があったのは、ゆとりを重んじる西欧人の気質か、それとも競技の準備の上で必要だったのかもしれない。

出発前に最も心配していたのが言葉の問題だが、不自由だったのは否めないものの、困るという事はなかった。もっとも、講演や開会式のスピーチのジョークがよく解らなかつたのは、周りの人々が笑っているだけに、少し悔しかった。

色々あったが、IOIに参加したのはいい経験になり、楽しかった。コンピュータでプログラムを作る事に興味のある人は、力試しにでも、ぜひとも参加して欲しい。

1993-4年度 事業報告

IOI日本委員会

第5回 IOI アルゼンチン大会への observer 派遣

1993年10月15日～24日にアルゼンチンのメンドウサで行われた第5回 IOI アルゼンチン大会へ野口廣、守屋悦郎を派遣し、第6回 IOI 大会参加へ向けての調査連絡を行った。

第1回 日本情報オリンピック開催

第1回日本情報オリンピックの参加募集は11月1日より12月31日までの間に行われた。受験申込者は143名に達した。また、試験会場は62（内2カ所は特設）カ所となった。そこで全国を10の地区、北海道、東北、関東、甲信越、北陸、東海、近畿、中国、四国、九州に分けて予選が行われた。

第1回日本情報オリンピック予選合格者リスト36名 ★印は中学生

都道府県	氏名	学校名	学年	都道府県	氏名	学校名	学年	都道府県	氏名	学校名	学年
北海道	五十嵐建平	北海道立岩見沢東高校	2	神奈川県	手島啓幾	桐蔭学園高校	1	三重県	竹越裕司	三重県立津高校	2
茨城県	飯嶋浩光	清真学園中学校	★3	神奈川県	金子寛人	慶應義塾湘南藤沢高等部	2	京都府	縣亮慶	国立舞鶴工業高等専門学校	2
栃木県	並木健太郎	古河第一中学校	★3	神奈川県	高塚遙	慶應義塾湘南藤沢高等部	1	大阪府	後藤直久	灘高校	2
東京都	岡嶋大介	筑波大学附属駒場高校	2	山梨県	笹本武彦	組合立甲陵高校	2	大阪府	森麻夫	大阪教育大学附属高校平野校舎	2
東京都	松山健吾	筑波大学附属駒場高校	1	山梨県	上田陽平	組合立甲陵高校	1	大阪府	木村成彰	大阪府立工業高等専門学校	2
東京都	古屋武史	慶應義塾志木高校	1	新潟県	村井将則	高岡芸芸高校	2	大阪府	黒田洋介	高槻高校	2
東京都	田谷彰大	埼玉県立伊奈学園総合高校	1	新潟県	清水亮	新潟県立国際情報高校	2	奈良県	東武大	東大寺学園高校	2
東京都	小森裕介	千葉県立千葉商業高校	2	静岡県	大塚節文	沼津工業高等専門学校電気工学科	2	高知県	矢野真人	土佐塾高校	2
東京都	山本裕介	早稲田大学高等学院	1	愛知県	加藤清太	愛知県立春日井高校	2	福岡県	林田隆則	国立有明工業高等専門学校	2
神奈川県	長谷悠滋	開成高校	1	愛知県	伊藤剛志	東海中学	★2	福岡県	洲上竜司	泰星高校	2
神奈川県	伊藤新也	筑波大学附属駒場高校	1	香川県	伊藤金彦	清見高校	1	福岡県

予選通過のうち欠席者を除く34名は、2月11日午後1時より5時まで9カ所の試験会場で本選に臨み、その結果、第1回日本情報オリンピックの成績優秀者として下記の9名が選ばれた。

第1回日本情報オリンピック成績優秀者リスト

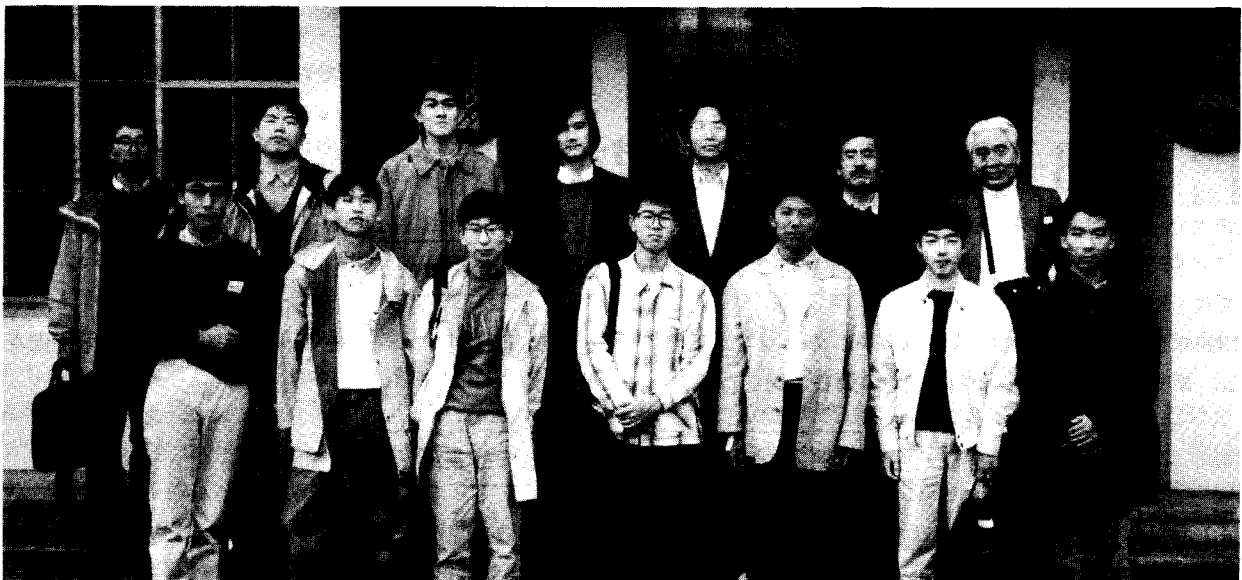
賞	氏名	県名	所属校	学年	賞	氏名	県名	所属校	学年
金賞	松山 健吾	東京	筑波大学附属駒場高校	1年		加藤 清太	愛知	愛知県立春日井高校	2年
銀賞	伊藤 哲史	神奈川	筑波大学附属駒場高校	1年		安藤 智暁	三重	高田高校	2年
銅賞	洲上 竜司	福岡	泰星高校	2年		縣 亮慶	京都	国立舞鶴工業高等専門学校	2年
	五十嵐建平	北海道	北海道立岩見沢東高校	2年		黒田 洋介	大阪	高槻高校	2年
	飯嶋 浩光	茨城	清真学園中学校	3年					

(以上9名)

第1回日本情報オリンピックの成績優秀者の表彰式は、3月27日(日)午後3時より協栄生命団体支社6階の会議室で行われた。式は成嶋 弘 東海大学教授の司会で行われ、まず世話人の野口 廣 早稲田大学数学科教授より、第1回日本情報オリンピックの経過報告があり、続いて寺田文行早稲田大学情報学科教授より優勝者松山健吾君に金メダルが、伊藤哲史君に銀メダルが洲上竜司君に銅メダルが授与された。又前記9名の成績優秀者全員に賞状が授与された。

そのあと式に参加された父兄や各大学で情報教育に携わっている IOI 委員会協力者達と午後5時までなごやかなティーパーティーが行われた。

第6回 IOI スウェーデン大会選手候補者の合宿と選手の決定



春の合宿（東京女子大学情報オリンピックセンターにて）

IOI 日本委員会は第1回日本情報オリンピックの成績優秀者9名を3月26日(土)～4月1日(金)に、国立オリンピック記念青少年総合センターに招待して春の合宿を行い、東京女子大学の情報処理センターで Sony Quater L を用いて実習を行った。この間に行った数回のテストの成績およびその後の通信教育の結果等を考慮して4月25日に下記の IOI 日本代表選手2名を決定した。

伊藤 哲史 筑波大学附属駒場高校 2年
松山 健吾 筑波大学附属駒場高校 2年

第6回 IOI スウェーデン大会への日本代表選手の派遣

7月3日(日)守屋悦朗 団長、峯崎俊哉、谷 聖一 副団長が同伴して、2名の日本選手はスカンジナビア機でスウェーデン大会へ出発した。大会は参加52カ国、生徒189人が参加し、4日に開会式、コンテストは6、8日(各問題は3題で5時間)に行なわれた。日本選手は伊藤、松山の両君が銀メダルをとった(金メダル16人、銀メダル34人、銅メダル51人。国別順位は公表されていないが、ロシア、中国、ドイツ、ハンガリー、チェコ、ルーマニア……の順)。日本選手団は7月11日(月)無事に帰国し解散した。



謝辞

IOI 日本委員会は1994年7月に行われた第6回国際情報オリンピック・スウェーデン大会へ、日本代表選手の初参加を果すに至るまで、種々の活動を御支援いただき、御寄付を賜りました下記の方々の御協力に心よりなる感謝の意を表します。

寄付者リスト

個人（8月10日現在、順不同）

川井 三郎殿，本部 均殿，戸川 美郎殿，
一松 信殿，平畑 博敏殿，古川 昭夫殿

法人（8月10日現在、順不同）

(財)数学オリンピック財団殿，(財)大川情報通信
基金殿，インテルジャパン(株)殿，アスキー(株)殿，
東芝(株)殿



お願い

今年度は第7回 IOI オランダ大会へ向けての事業を開始いたしますが、IOI 日本委員会には基金の備えがなく、活動の資金はすべて篤志個人・法人の御支援に頼らざるを得ないのが現状であります。何卒日本の情報教育

振興のための起爆剤であります当委員会の活動に御賛同下さり、下記へ、何時でも如何程でも結構です、御寄付下さいますよう切にお願い申し上げます。

「あさひ銀行早稲田支店(306)普通1004367番 IOI 日本委員会」



IOI(国際情報オリンピック)日本委員会

設立主旨

1. 情報に才能のある高校生以下の生徒を見だし、その学習意欲を激励し才能の順調な発展を助ける。
2. これらの生徒に国際交流・国際理解の眼を開かせる。
3. この事業を通して得られる知見を日本の情報教育の活発な改善と発展の原動力とする。

事業

1. 日本代表選手選抜のための日本情報オリンピック (JOI と略記) の開催
2. 日本代表選手の IOI 大会への派遣
3. 情報の研究・教育の発展・普及のための研究・調査・啓蒙
4. 以上に関連する事業

顧問

平山 博 (早稲田大学名誉教授，工博)
西村 敏男 (神奈川大学理教授，理博)

協力者

IOI 日本委員会の事業の実施のために現在までのところ以下の方々が協力して下さっております。

正田 實 (滋賀大学教授，元文部省主任教科調査官)
 藤野 喜一 (電気通信大学大学院教授，理博)
 服部 光宏 (日本電気株式会社，理博)
 守屋 悦朗 (東京女子大学教授，数学教室。理博)
 笠井 琢美 (電気通信大学教授，情報工学科。理博)
 成嶋 弘 (東海大学理学部教授，情報数理学科。理博)
 戸川 美郎 (東京理科大学理工学部助教授，情報科学科。理博)
 中村 剛 (長崎医療短大教授，理博，医博)
 夜久 竹夫 (日本大学文理学部教授，数学科。理博)
 山本 慎 (中央大学理工学部教授，理博)
 西野 哲朗 (北陸先端科学技術大学院大学助教授，情報工学科。理博)
 土田 賢生 (東洋大学情報工学科講師。理博)
 峯崎 俊哉 (東海大学理学部 情報数理)
 安斉 公土 (関東学園大学経済学部 講師)
 谷 聖一 (東京女子大学情報処理センター助手)

世話人

寺田 文行 (早稲田大学理工学部教授，情報学科。理博)
野口 廣 (早稲田大学理工学部教授，数学科。理博)

第2回日本情報オリンピック

(第7回国際情報オリンピック日本代表候補選抜試験)

IOI 日本委員会 = 国際情報オリンピック日本委員会

募集要項

第2回日本情報オリンピック(以下でJOIと呼ぶ。予選1月15日、本選2月11日)を以下の要領で行ないます。このJOI本選での上位入賞者には、金、銀、銅メダルが授与され、成績優秀者の中より第7回国際情報オリンピック(IOI: International Olympiad in Informatics)オランダ大会(1995年6月26日~7月2日の予定)へ派遣する日本代表選手若干名が選抜されます。奮ってご参加下さい。(日本代表選手のIOIへの参加費用は、開催国及び当委員会が負担)

受験資格: 1995年7月中旬に高校かそれ以下の学校(高専の場合は高校の相当学年)の在学学生(相当)であり、19才未満の者

試験内容: 高校1年終了+アルファ程度の数学の知識、及びPascal (Turbo Pascal), C (Borland C++), BASIC (Quick BASIC)のどれか一つの言語の基本を知っている必要があります。課題のアルゴリズムを考え、プログラムを読み/書く問題です。

ただし、JOI予選・本選はペーパーテストであり、1995年3月末に予定されている春の合宿はパソコンを用います。

受験料: 3,000円

受験料納付者には、前回の日本情報オリンピック予選・本選の問題と解答を送りますから、今から勉強を始めてください。

「国際情報オリンピック問題集・解答付き(1994年版)」(実費2,000円)を用意します。希望者は受験料と合わせて5,000円を下記へ申し込んで下さい。

(ただし、この冊子の送付は10月以降になる予定です。)

申込方法: 1994年6月1日より11月30日(締切日注意)までの間に、郵便局の青色の振替用紙に下記事項を記入の上、下記口座に申し込んで下さい(記入もれがあると受付出来ないことがあります。)

口座番号=00190-4-763863

加入者名=IOI日本委員会

通信欄=学校名・学年・生年月日・性別・希望試験会場

払込人欄=〒郵便番号・住所・氏名(フリガナ)

電話番号

JOI予選

選抜方法: 3時間で6問の解答のみを記す筆記試験(予定)

日時: 1995年1月15日 午後1時から4時まで

地区と試験会場:

◁北海道・東北>札幌・函館・旭川・美幌・弘前・八戸・盛岡・仙台・秋田・酒田・山形・福島・郡山・いわき

◁関東>真岡・水戸・鹿島・高崎・茂原・館山・東京・横浜

◁甲信越・北陸>甲府・松本・長野・新潟・上越・富山・金沢・福井

◁東海>岐阜・静岡・浜松・沼津・名古屋・岡崎・津

◁近畿>京都・大阪・神戸・奈良・和歌山

◁中・四国>鳥取・米子・出雲・岡山・広島・山口・徳島・高松・松山・高知

◁九州>福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・那覇

合格者発表: 2月1日までに全国上位約50名の予選合格者を決定し、合格証を授与します。

JOI本選

選抜方法: 上記の予選合格者約50名の中から上位約10名を選抜します。4時間で4問にアルゴリズム、プログラムを答える筆記試験(予定)

日時: 1995年2月11日 午後1時から5時まで

試験会場: 試験会場は、後日通知します。

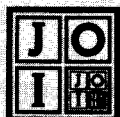
合格者発表: 3月上旬までに全国上位約10名の成績優秀者を決定します。

表彰: 3月末~4月初めに成績優秀者に表彰状を、さらに上位者には金・銀・銅メダルを授与します。

春の合宿(選手選抜): 上記のJOI成績優秀者10名を合宿に招いて、講義を行う。この合宿中にパソコンを用いたテストを行ない、又その後の通信教育の結果等により日本代表選手若干名を選抜する予定です。

日時・場所: 1995年3月下旬約1週間。東京の予定。

注意: 財団法人数学オリンピック財団主催の日本数学オリンピック(JMOと呼ぶ)の予選・本選と、このJOIの予選・本選とは日時が同じですからJOIとJMOの両方を受験することは出来ません。



情報オリンピック通信

No. 1 1994年8月31日発行

編集・発行

〒160 東京都新宿区新宿6-27-49 協栄生命ビル6F

IOI 日本委員会

= 国際情報オリンピック日本委員会

Tel 03-5272-9794 Fax 03-5272-9791